



## 食と環境 新しい農家の 取り組み

心  
あ  
っ  
た  
か  
ニ  
ュ  
ー  
ス

NMCAA  
NO3

農家の減少は1965年に1151万人が2015年には200万人とすごいスピードで減少しているということを知って驚きました。4月22日放送の報道特集で、新しい農業の取り組みが始まっているのを知りました。

肥料農薬除草剤を使わない自然栽培に取り組む農家のお話でした。肥料を入れないからこそ、根がしっかりと土に伸ばしていくために、しっかりとした稲が育つ一方で、映像でも普通の根の倍以上のしっかりとしたものでした。この農家の働き手は、障害を持った人で農福連携というものだそうです。稲を収穫し終わった根は土のなかの微生物が分解して、その時に養分になる無機窒素が放出されるため、次の年に植える肥料がいらなく、逆に肥料を与えることで、窒素過多となってしまう、それが病気や虫の被害を受けやすくなり、また

自然栽培のお米は一般の米よりも高く買い取ってもらえるので、働く人にも給料を高くできるとのこと。ここで働く障害を抱えた人にとっても、やりがいを感じられるように、美味しいと思うお米をおいしそうですよと笑顔で言っていたのが印象に残りました。そこで働くようになったある男性は、前の仕事よりも仕事の内容を家族によく話すようになったそうです。自然の力と自然を大切にする人のとてもいい関係だと感じました。

一方、JA農業協同組合は、この肥料や農薬を農家に売って収益としているのでJAからしたらこの自然栽培は一致しないはずだが、自然栽培をすすめているのが羽咋市のJAです。農家の減少のために、いままでのやり方以外のやり方もJAとして用意するべきだという考えから、安心安全な子供達の豊かな食と環境をつなぎたいという理念でやっているそうです。他県から自然栽培をするために移住してくる農家さんもあるようで、市の人口増加にもつながっているようです。もともここで農家をやってきた人も一部を自然栽培に切り替えた人は「最初は人に笑われないかな？」と思ったところもあるが、周りの人もすごいとほめてくれるから、やってみて良かった」そうです。収穫量は農薬肥料を使う田んぼの半分だ

そうですが、JAが高く買い取ってくれるのだそうです。農家の人が楽しそうに、土の力、食物の力をみて、感じてそれでみんなが喜んでくれて、農家の人が楽しく仕事ができれば、それを食べる方も本当にうれしくて、うれしいが増えていくなど思いました。

### 編集後記

新しく始まっている農家の取り組み、JA日本の農家に笑顔で頑張っていて欲しいと思いましたが、消費する側も取り組む人達とその想いをしっかりとわかって未来の食と環境を担うのは農家だけでなく、私達消費者も高い関心をもつていきたいものです。農家が元気でこそ、それを食べる私達の元気があると思いません。